

第43期

定時株主総会 招集ご通知

平成27年4月1日～平成28年3月31日

開催日時

平成28年6月22日（水曜日）午前10時
（受付開始 午前9時30分）

開催場所

東京都新宿区西新宿八丁目17番1号
ベルサール新宿グランド
コンファレンスセンター 5階
（末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。）

議決権行使期限

平成28年6月21日（火曜日）午後5時まで



目次

第43期定時株主総会招集ご通知…………… 2

添付書類

事業報告…………… 4
計算書類等…………… 20
監査報告書…………… 30

株主総会参考書類

議案及び参考事項…………… 34
議案 剰余金の配当の件

株式会社 アサント

証券コード：6073

証券コード：6073
平成28年6月3日

株 主 各 位

東京都新宿区新宿一丁目33番15号
株式会社 アサンテ
取締役社長 宗 政 誠

第43期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第43期定時株主総会を、下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、**当日ご出席願えない場合は**、書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら後記株主総会参考書類をご検討くださいますと、**同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成28年6月21日（火曜日）午後5時までに到着するようご送付いただきたくお願い申し上げます。**

敬 具

記

1.日 時 平成28年6月22日（水曜日）午前10時（受付開始 午前9時30分）

2.場 所 東京都新宿区西新宿八丁目17番1号
ベルサール新宿グランド コンファレンスセンター 5階
(末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。)

3.会議の目的事項

報告事項 第43期（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）
事業報告及び計算書類報告の件

決議事項

議案 剰余金の配当の件

4. 招集にあたっての決定事項

株主総会にご出席いただけない場合、議決権を有する他の株主1名を代理人として株主総会にご出席いただくことができます。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となりますのでご了承ください。

以 上

-
- ◎お願い：当日のご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
また、お土産をご用意しておりますが、議決権行使書用紙の枚数にかかわらず、ご出席の株主お一人様に対し1個とさせていただきます。
- ◎ご案内：株主総会参考書類、事業報告及び計算書類に修正が生じた場合には、インターネット上の当社ウェブサイト(<http://www.asante.co.jp/>)に掲載させていただきます。

1. 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及び成果

① 事業の状況

当事業年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用の改善により緩やかな回復基調で推移しましたが、個人消費の回復の遅れ、株価や為替の変動などにより、景気の先行きについては不透明な状況となりました。

当社市場におきましては、既存家屋の保全意識は依然として高かったものの、消費者マインドの停滞と人材採用の競争激化が、当社にとって逆風となりました。

このような状況下、当社は平成27年4月に奈良支店を新規開設し、営業エリアを21都府県に拡大いたしました。そして、白蟻防除のトップシーズンに当たる第1四半期を中心に積極的な広告宣伝・販促活動を展開して、受注の増加に努めました。また、人員を増強するため、人事関連部門の再編を行ないました。ガバナンス強化につきましては、平成27年6月に社外取締役を増員いたしました。

以上の取組みにより、白蟻防除売上高が前期比3.7%増、床下等換気システム売上高が同5.0%増、基礎補修・家屋補強売上高が同6.7%増となり、総売上高は同604百万円増（4.8%増）の13,273百万円となりました。

売上原価、販売費及び一般管理費につきましては、施工効率の向上による労務費率の低下とガソリン価格の下落に伴い、売上原価率が0.4ポイント低下しましたが、人件費率の上昇と、求人費並びに減価償却費等の増加により、販売費及び一般管理費率が0.9ポイント上昇しました。この結果、営業利益は前期比32百万円増（1.4%増）の2,332百万円となり、経常利益は営業外収益の減少により同9百万円減（0.4%減）の2,339百万円となりました。当期純利益は、同73百万円増（5.2%増）の1,485百万円となり、過去最高益となりました。

② 対処すべき課題

当社は、経営理念を実現し、以って持続的な成長と企業価値の向上を図るために、以下の中期経営計画並びに年度事業計画に基づき、具体的戦略・施策を立案、推進してまいります。

(i) 経営理念

人と技術を育て、人と家と森を守る

(ii) 中期経営計画（平成29年3月期（第44期）—平成31年3月期（第46期））

白蟻防除を含むハウスマンテナンス市場は、今後中期的に拡大機運に向かうと思われ
ます。その中で当社は、業界の旗手としてより積極的に営業エリアの拡大と認知度向上
に努め、中長期にわたる利益成長を目指してまいります。

【経営方針】

- 営業エリア開拓・深耕のペースアップ
- 企業としての魅力アップ
- 経営改革力、企画推進力のパワーアップ

【業績目標】

平成31年3月期（第46期）売上高167億円 営業利益30億円

(iii) 年度事業計画（平成29年3月期（第44期））

営業エリア開拓・深耕を推進するとともに、例年以上に積極的なPR展開により、売
上増加を図ってまいります。利益につきましては、前期における退職給付債務の増加と
年金資産の運用利回り悪化によって退職給付費用計上額が増加することを主因として前
期比減益と予想しておりますが、営業効率をより高め、利益率の向上並びに額の増加に
努めてまいります。

【事業戦略】

- コーポレートガバナンス強化と経営推進力向上
- ステークホルダーへの情報発信と対話の推進
- 内部統制システム体制強化
- 営業面での革新的企画の立案、推進
- 新規営業力並びに顧客維持力の向上
- 新規拠点、その他営業チャネルの獲得
- 人員採用、育成並びに活性化
- 管理業務の効率化並びに管理人員・コストの適正化

【業績予想】

売上高	14,470百万円	(前期比9.0%増)
営業利益	2,167百万円	(同 7.1%減)
経常利益	2,174百万円	(同 7.1%減)
当期純利益	1,417百万円	(同 4.6%減)

- ③ 設備投資の状況
該当事項はありません。
- ④ 資金調達の状況
該当事項はありません。
- ⑤ 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況
該当事項はありません。
- ⑥ 他の会社の事業の譲受けの状況
該当事項はありません。
- ⑦ 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況
該当事項はありません。
- ⑧ 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況
該当事項はありません。

2 財産及び損益の状況

区 分	期 別	第40期 (平成25年3月期)	第41期 (平成26年3月期)	第42期 (平成27年3月期)	第43期(当期) (平成28年3月期)
売 上 高	(百万円)	12,079	12,924	12,669	13,273
営 業 利 益	(百万円)	2,188	2,570	2,299	2,332
経 常 利 益	(百万円)	2,135	2,566	2,349	2,339
当 期 純 利 益	(百万円)	1,205	1,378	1,412	1,485
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	(円)	114.42	114.26	115.22	120.37
総 資 産	(百万円)	10,643	12,006	12,749	14,025
純 資 産	(百万円)	6,994	8,154	9,268	10,359
1 株 当 た り 純 資 産	(円)	584.54	668.66	750.99	839.36

(注) 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式数により、1株当たり純資産は期末現在の発行済株式数によりそれぞれ算出し、表示単位未満は四捨五入しております。

3 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 親会社との関係
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況
該当事項はありません。
- ③ 当事業年度末日における特定完全子会社の状況
該当事項はありません。

4 主要な事業内容

当社は、木造家屋を対象とした「白蟻対策」、「湿気対策」、「地震対策」の各種施工を主力事業としております。また、その他のサービスとして、家庭用太陽光発電システム施工や住宅リフォーム等も取り扱っております。

これらの施工とアフターメンテナンスとの組み合わせによって、「総合ハウスメンテナンスサービス」を効率的に提供しております。

また、主にオフィスビル・飲食店等の法人所有物件を対象に、ゴキブリ・ネズミ等の害虫・害獣防除等を行っております。

5 主要な営業所及び工場（平成28年3月31日現在）

本	社	東京都新宿区	
支 営	業 店 所	東北・福島支店（福島県郡山市）	6営業所
		新潟支店（新潟県新潟市）	3営業所
		茨城支店（茨城県土浦市）	2営業所
		北関東支店（群馬県高崎市）	3営業所
		長野支店（長野県長野市）	2営業所
		東京支店（東京都新宿区）	7営業所
		神奈川支店（神奈川県横浜市）	6営業所
		千葉支店（千葉県千葉市）	5営業所
		静岡支店（静岡県静岡市）	9営業所
		愛知支店（愛知県名古屋市中区）	8営業所
		岐阜支店（岐阜県岐阜市）	5営業所
		京都支店（京都府京都市）	1営業所
		奈良支店（奈良県奈良市）	1営業所
		和歌山支店（和歌山県和歌山市）	1営業所
工	場	伊万里工場（佐賀県伊万里市）	
研 修 セ ン タ ー	-	三ヶ日総合研修センター（静岡県浜松市）	
		猪苗代総合研修センター（福島県耶麻郡猪苗代町）	

6 従業員の状況（平成28年3月31日現在）

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
937名	13名増	35.2歳	8.0年

(注) 従業員数には、受入出向者（1名）を含み、派遣出向者（2名）、嘱託（39名）及び臨時従業員（7名）は含まれておりません。

7 主要な借入先（平成28年3月31日現在）

借入先	借入額
株式会社三菱東京UFJ銀行	423百万円
株式会社みずほ銀行	230百万円
静岡県信用農業協同組合連合会	155百万円
農林中央金庫	105百万円
株式会社りそな銀行	85百万円

8 その他会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

2. 会社の状況に関する事項

1 会社の株式に関する事項（平成28年3月31日現在）

- | | |
|------------|-------------|
| ① 発行可能株式総数 | 42,000,000株 |
| ② 発行済株式の総数 | 12,341,900株 |
| ③ 株主数 | 8,179名 |
| ④ 大株主 | |

株主名	持株数	持株比率
株式会社ムネマサ	3,750,000株	30.4%
宗政誠	856,425株	6.9%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	608,100株	4.9%
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーリフィデリティファンズ	571,600株	4.6%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505224	427,100株	3.5%
渋谷健一	361,000株	2.9%
アサンテ従業員持株会	343,775株	2.8%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	246,200株	2.0%
宗政ヨシ	225,000株	1.8%
宗政和美	225,000株	1.8%

※持株比率は、自己株式(68株)を控除して計算しております。

⑤ その他株式に関する重要な事項

該当事項はありません。

2 会社の新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 会社役員に関する事項

① 取締役及び監査役の氏名等（平成28年3月31日現在）

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	宗 政 誠	
専務取締役	渋谷 健一	株式会社ヒューマン・グリーンサービス取締役
常務取締役	飯柴 正美	経営企画室長
取締役	亀山 彰	経理部長 株式会社ヒューマン・グリーンサービス取締役
取締役	西山 敦	人事部長 株式会社ヒューマン・グリーンサービス監査役
取締役	宮内 征	人材開発部長
取締役	内田 勝巳	株式会社エー・ジー・ピー代表取締役社長 株式会社ホギメディカル取締役
取締役	堂垣内重晴	ディーブイエックス株式会社取締役 株式会社たち吉代表取締役専務 プログレス合同会社代表社員社長
常勤監査役	犬飼由喜夫	
監査役	櫛田 泰彦	櫛田法律事務所代表者（弁護士）
監査役	黒澤 誠一	黒澤公認会計士事務所代表者（公認会計士） 東邦チタニウム株式会社監査役

- (注) 1. 取締役内田勝巳、堂垣内重晴の両氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役犬飼由喜夫、櫛田泰彦、黒澤誠一の3氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 監査役犬飼由喜夫氏は、前職において経理関連業務における責任者の経験を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
4. 監査役黒澤誠一氏は、長年にわたり公認会計士としての勤務経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
5. 取締役内田勝巳、取締役堂垣内重晴、監査役犬飼由喜夫、監査役櫛田泰彦及び監査役黒澤誠一の5氏は、株式会社東京証券取引所に定める独立役員であります。
6. 取締役堂垣内重晴氏は、平成27年6月23日開催の当社第42期定時株主総会において、取締役に選任され就任、同年6月26日株式会社テクノ菱和の取締役を任期満了により退任、同年6月26日ディーブイエックス株式会社の社外取締役に選任され就任、同年6月29日株式会社たち吉の取締役に選任され就任、同年8月21日にプログレス合同会社を設立し、代表社員社長に就任しております。
7. 取締役西山敦氏は、当社特例子会社株式会社ヒューマン・グリーンサービス監査役を兼職しておりましたが、平成28年5月23日付けで、任期満了により同社監査役を退任しております。

8. 当事業年度中に取締役の担当の異動がありました。

異動日	氏名	新役職名	旧役職名
平成27年4月1日	亀山 彰	取締役人事本部長 兼 人事部長	取締役経理部長
	宮内 征	取締役営業本部長 兼 T S 営業部長	取締役営業本部長
異動日	氏名	新役職名	旧役職名
平成28年2月1日	亀山 彰	取締役経理部長	取締役人事本部長 兼 人事部長
	西山 敦	取締役人事部長	取締役総務部長
	宮内 征	取締役人材開発部長	取締役営業本部長 兼 T S 営業部長

② 責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等である者を除く。）及び監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は同法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

③ 取締役及び監査役の報酬等の額

区分	支給人員	報酬等の額
取締役	8名	231,040千円
監査役	3名	24,028千円
合計	11名	255,068千円

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
 2. 第37期定時株主総会（平成22年6月25日開催）決議に基づく取締役の報酬限度額は、年額300,000千円（ただし、使用人分給与は含まない）であります。
 3. 第37期定時株主総会（平成22年6月25日開催）決議に基づく監査役の報酬限度額は、年額50,000千円であります。なお、監査役の報酬については、その職務に鑑み、固定報酬である月例報酬のみとしております。
 4. 上記報酬等の総額には、当事業年度における役員退職慰労引当金17,176千円が含まれております。

④ 社外役員に関する事項

(i) 重要な兼職先である他の法人等と当社との関係

区 分	氏 名	他の法人等との関係
取 締 役	内 田 勝 巳	株式会社エー・ジー・ピーの代表取締役社長であります。当社と同社に重要な取引その他の関係はありません。 株式会社ホギメディカルの取締役であります。当社と同社に重要な取引その他の関係はありません。
取 締 役	堂 垣 内 重 晴	ディーブイエックス株式会社の取締役であります。当社と同社に重要な取引その他の関係はありません。 株式会社たち吉の代表取締役専務であります。当社と同社に重要な取引その他の関係はありません。 プログレス合同会社の代表社員社長であります。当社と同社に重要な取引その他の関係はありません。
監 査 役	犬 飼 由 喜 夫	該当事項はありません。
監 査 役	櫛 田 泰 彦	櫛田法律事務所の代表者であります。当社と同事務所に重要な取引その他の関係はありません。
監 査 役	黒 澤 誠 一	黒澤公認会計士事務所の代表者であります。当社と同事務所に重要な取引その他の関係はありません。 東邦チタニウム株式会社の監査役であります。当社と同社に重要な取引その他の関係はありません。

(ii) 主要取引先等特定関係事業者との関係

該当事項はありません。

(iii) 当事業年度における主な活動状況

区 分	氏 名	主 な 活 動 状 況
取 締 役	内 田 勝 巳	当期開催の取締役会17回の全てに出席し、企業経営に関する豊富な経験と幅広い知見から経営全般にわたって適宜発言を行なっております。 このほかに、経営会議、支店長会議、コーポレートガバナンス・コード導入委員会、並びに代表取締役社長、監査役等との意見交換会等に出席し、適宜発言を行なっております。
取 締 役	堂 垣 内 重 晴	平成27年6月23日の就任後、13回開催された取締役会全てに出席し、企業経営に関する豊富な経験と営業面における幅広い知見から経営全般にわたって適宜発言を行なっております。 このほかに、経営会議、支店長会議、コーポレートガバナンス・コード導入委員会、並びに代表取締役社長、監査役等との意見交換会等に出席し、適宜発言を行なっております。
監 査 役	犬 飼 由 喜 夫	当期開催の取締役会17回の全てに出席し、事業会社における豊富な経験・見地から適宜発言を行なっております。 また、当期開催の監査役会17回の全てに出席し、監査計画に基づく監査実施状況を報告するとともに、監査方針等に関して意見交換をしております。 このほかに、経営会議、支店長会議、リスク管理委員会、コーポレートガバナンス・コード導入委員会、並びに代表取締役社長、取締役等との意見交換会等に出席し、適宜発言を行なっております。
監 査 役	榎 田 泰 彦	当期開催の取締役会17回の全てに出席し、主に弁護士として専門的見地からの発言を行なっております。 また、当期開催の監査役会17回の全てに出席し、監査状況の報告を受けるとともに、監査方針に関して意見交換をしております。 このほかに、代表取締役社長、取締役等との意見交換会等に出席し、適宜発言を行なっております。
監 査 役	黒 澤 誠 一	当期開催の取締役会に17回中16回出席し、主に公認会計士として培った豊富な経験・見地から適宜発言を行なっております。 また、当期開催の監査役会17回の全てに出席し、監査状況の報告を受けるとともに、監査方針に関して意見交換をしております。 このほかに、代表取締役社長、取締役等との意見交換会等に出席し、適宜発言を行なっております。

(iv) 報酬等の額

区 分	支 給 人 員	報 酬 等 の 額
社 外 役 員	5名	32,941千円

(注) 上記報酬等の額には、当事業年度における役員退職慰労引当金2,221千円が含まれております。

4 会計監査人の状況

① 会計監査人の名称	新日本有限責任監査法人
② 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	
公認会計士法（昭和23年法律第103号）第2条 第1項の業務に係る報酬等の額	21,000千円
公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務に 係る報酬等の額	－千円
合 計	21,000千円

(注) 会計監査人の報酬等について監査役会が同意した理由

監査役会は、社内関係部署及び会計監査人より必要な資料を入手し、会計監査人の監査計画、監査の実施状況及び報酬の見積りの算出根拠等を精査した結果、当該報酬は妥当であると判断したため、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行なっております。

- ③ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針
当社では、会計監査人の解任または不再任を株主総会の議案の目的とする場合には、会計監査人による監査の品質、監査の効率性、監査実績、独立性、監査の実施体制及び監査能力等を総合的に判断のうえ、監査役の全員の同意によって行ないます。
また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合には、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任することができます。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。
- ④ 過去2年間に受けた業務停止処分等に関する事項
金融庁が平成27年12月22日付で発表した懲戒処分等の内容の概要
- (i) 処分対象
新日本有限責任監査法人
- (ii) 処分内容
- ・ 契約の新規の締結に関する業務の停止 3ヵ月
(平成28年1月1日から同年3月31日まで)
 - ・ 業務改善命令(業務管理体制の改善)
- ※併せて、約21億円の課徴金納付命令に係る審判手続開始を決定
- (iii) 処分理由
- ・ 新日本有限責任監査法人（以下「当監査法人」）は、株式会社東芝の平成22年3月期、平成24年3月期及び平成25年3月期における財務書類の監査において、7名の公認会計士が、相当の注意を怠り、重大な虚偽のある財務書類を重大な虚偽のないものとして証明した。
 - ・ 当監査法人の運営が著しく不当と認められた。

5 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

① 業務の適正を確保するための体制

当社は、平成18年5月18日開催の取締役会において、「内部統制システム構築に関する基本方針」を決議し、その後平成27年3月31日開催の取締役会において下記のとおり変更しております。

(1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (i) 法令等の遵守を徹底するため、コンプライアンス規程に基づき、コンプライアンス担当取締役を任命し、コンプライアンスの維持・強化を図る。その徹底を図るため、総務部は全社のコンプライアンスの取組みを横断的に統括し、内部監査室はコンプライアンスの状況を監査する。また、法令等に違反する行為を発見した場合の報告体制として、内部通報制度を適用し、総務部、顧問弁護士事務所及び顧問社会保険労務士事務所に通報窓口を設置・運営し、通報者等に対して解雇その他いかなる不利益な取扱いを行わないものとする。
- (ii) 万一コンプライアンスに関連する事態が発生した場合には、コンプライアンス担当取締役を通じて、その内容・対処案を取締役会及び監査役または監査役会に報告する。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- (i) 取締役の職務の執行に係る文書の保存及び管理に関する事項は、文書管理規程に従うものとし、監査役が求めたときは、担当取締役もしくは所管部門長は、いつでも文書の閲覧及び謄写に供するものとする。
- (ii) 情報システムを安全に利用及び活用するため、適切な維持管理・運用を行なう。
- (iii) 万一情報システムに関連して問題が生じた場合には、システム部は速やかに、その内容・対処案を取締役会に報告する。
- (iv) 内部監査室は、情報システムの管理状況について監査を実施するものとする。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (i) リスク管理規程に基づき、リスク管理担当取締役を任命し、適切なリスク対応を図る。そのため、担当取締役を委員長とするリスク管理委員会を設置し、その下に、経営企画室を核として、事務局を設置し、組織横断的リスク状況の監視並びに全社的対応を行なう。
- (ii) 各部門の所管業務に付随するリスク管理は当該部門が行なうものとし、事務局へ定期的にリスク管理状況を報告し、連携を図るものとする。

-
- (4) 取締役の職務の執行が効率的に行なわれることを確保するための体制
- (i) 経営計画のマネジメントについては、経営方針を機軸に毎年策定される年度事業計画及び中期経営計画に基づき、各部門において目標達成のために活動することとする。また、経営目標が当初の予定どおりに進捗しているか等、経営に係わる重要事項についての情報共有を行なうため、取締役及び常勤監査役並びに組織上の重要ポストに位置する管理職で構成する経営会議を月1回以上の頻度で開催する。
 - (ii) 日常の職務遂行に際しては、職務分掌規程及び職務権限規程に基づき権限の委譲が行なわれ、各責任者が意思決定ルールに則り業務を遂行するとともに、稟議制度による意思決定プロセスの簡素化により、意思決定の迅速化を図る。
- (5) 当社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- 総務部を子会社管理の担当部門とし、関係会社管理規程に基づき子会社の状況に応じて必要な管理を行なうとともに、子会社においてもコンプライアンス規程に定める事項が適切に運営されるよう指導・監督するものとし、内部通報制度を適用するものとする。
- (6) 監査役がその職務の補助をすべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制
- 監査役は、総務部及び内部監査室に対してその職務の補助をすべき使用人を置くことを求めることができるものとし、当該使用人に監査業務に必要な事項を命令することができるものとする。
- (7) 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
- 監査役より監査業務に必要な命令を受けた使用人は、その命令に関して、取締役等の指揮命令を受けないものとし、当該使用人の人事異動、人事評価、懲戒は監査役会の意見を尊重した上で行なうものとする。

- (8) 当社及び子会社の取締役及び使用人等が監査役または監査役会に報告をするための体制、報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
当社及び子会社の取締役及び使用人等は、会社に重大な損失を与える事項が発生または発生するおそれがあるとき、違法または不正な行為を発見したとき、その他監査役会が報告すべきものと定めた事項が生じたときは、監査役または監査役会に報告するものとし、報告したことを理由として、解雇その他いかなる不利益な取扱いを行なわないものとする。
- (9) 監査費用の前払いまたは償還の手続きその他の監査費用等の処理に係る方針に関する事項
監査役が必要と認めるときは、公認会計士、弁護士その他外部専門家に相談することができる。その費用については会社が負担するものとし、速やかに監査費用の前払いまたは償還の手続きに応じるものとする。
- (10) その他監査役が監査が実効的に行なわれることを確保するための体制
内部監査部門との連携を図り、適切な意思疎通及び効果的な監査業務の遂行を図るとともに、監査役は経営会議ほか重要な会議に出席することができるものとする。
- (11) 財務報告に係る内部統制に関する整備状況
財務報告に係る内部統制の構築については、経理部を担当部門とし、財務報告の適正性を確保するため、全社的な管理、運用体制の構築を図る。
- (12) 反社会的勢力の排除に向けた基本方針及び整備状況
(i) 反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。そのため、反社会的勢力対応マニュアルに基づき、会社全体として組織的に対応を行なうものとする。
(ii) 総務部を反社会的勢力対応の担当部門とし、各部門間の報告・連絡体制を確立するとともに、各関係機関（警察、特防連等）との連携体制を構築し、反社会的勢力の排除に努める。
- ② 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要
(1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
当社は、コンプライアンス担当取締役を任命のうえ、全ての役員、従業員を対象として、少なくとも年1回はコンプライアンス研修を実施しております。また、内部通報窓口や各営業所における面談等を通じて、コンプライアンスに関する問題の実態把握に努

め、継続的な改善を図るとともに、問題点の内容及びその対処案を速やかに取締役会及び監査役会に報告しております。さらに、内部監査室は、社内規定の遵守状況やコンプライアンスの状況を監査し、内部監査の結果を取締役社長に報告しております。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、当事業年度において取締役会を17回開催し、取締役会の資料、議事録その他職務の執行に係る文書は、セキュリティが確保された場所で適正に保管しております。また、システム部に開発運用課と情報セキュリティ課を設置して、情報システムの適切な維持管理及び運用に努めるとともに、問題点については速やかにその内容や対処案を取締役会に報告しております。さらに、内部監査室は、情報システムの管理状況を監査し、内部監査の結果を取締役社長に報告しております。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、リスク管理担当取締役を任命し、事務局を設置のうえ毎月各部門はリスク管理の状況を報告しております。また、リスク問題が顕在化した際には、速やかにリスク管理委員会を招集のうえリスク対応を協議し、その内容や対応策を取締役会に報告しております。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行なわれることを確保するための体制

当社は、取締役会において決議された中期経営計画及び年度事業計画に基づき、各部門は目標達成のために業務活動をしております。さらに、経営会議を月1回開催して、経営に関わる重要情報の共有を図っております。また、各部門の業務内容や必要性に応じて、適正に職務権限を委譲するとともに、稟議制度を整備し意思決定のプロセスやルールを可視化・明確化することで、継続的な改善を図り意思決定の迅速化を図っております。

(5) 当社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、社内規定に基づき子会社の状況に応じて必要な管理を行っております。また、子会社に対しコンプライアンス研修を実施するなど、必要な指導・監督を行ない、継続的な改善を図るとともに、内部通報制度等の周知徹底に努めております。

(6) 監査役がその職務の補助をすべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制

当社は、総務部及び内部監査室に監査役を補助すべき担当者を設置のうえ、その担当者が、それぞれ監査役の命令に従って業務を遂行しております。

- (7) 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
取締役等は、補助使用人が監査役から受けた命令に相反するような指揮命令は行なっておりません。
- (8) 当社及び子会社の取締役及び使用人等が監査役または監査役会に報告をするための体制、報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
当社は、年2回の監査役会による本社部門長面談において報告を受ける体制となっており、また、内部通報案件については監査役または監査役会に報告しておりますが、通報者に対して解雇その他不利益な取扱いを行なっておりません。
- (9) 監査費用の前払いまたは償還の手続きその他の監査費用等の処理に係る方針に関する事項
当社は、監査役職務執行に要した費用については、費用の多寡にかかわらず、速やかに償還しております。
- (10) その他監査役が実効的に行なわれることを確保するための体制
当社は、内部監査室を監査役室の隣に配置し、日頃より緊密な連携や監査業務の補助が行なえる体制を築いております。また、常勤監査役は、経営会議ほか重要な会議に出席し、取締役社長及び社外取締役等との間で積極的な意見交換を行なっております。
- (11) 財務報告に係る内部統制に関する整備状況
当社は、経理部担当取締役が取締役会において財務報告に係る内部統制の計画及びスケジュールを報告のうえ、内部統制の構築や全社的な管理、運用体制の構築を行なっております。
- (12) 反社会的勢力の排除に向けた基本方針及び整備状況
当社は、全ての取引先を対象として、反社会性判断を実施し、営業所、支店、本社の間で緊密な報告・連絡体制を構築のうえ、組織的に反社会的勢力とは一切の関係を遮断しております。さらに、営業所がある地域の各警察署を訪問のうえ、各地の特殊暴力防止対策連合会等に参加し、各関係機関との連携体制の構築、反社会的勢力の排除に努めております。

~~~~~  
本事業報告に記載の金額及び株式数は、注記した事項を除き表示単位未満を切り捨てております。  
また、比率は表示単位未満を四捨五入しております。

# 計算書類等

## 貸借対照表 (平成28年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目              | 金 額               |
|-----------------|-------------------|------------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>    |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>8,427,886</b>  | <b>流動負債</b>      | <b>2,412,818</b>  |
| 現金及び預金          | 6,156,713         | 買掛金              | 289,665           |
| 売掛金             | 1,796,180         | 短期借入金            | 70,000            |
| 製品              | 60,512            | 1年内返済予定の長期借入金    | 412,788           |
| 原材料及び貯蔵品        | 135,882           | リース債務            | 23,990            |
| 前払費用            | 127,810           | 未払金              | 342,329           |
| 繰延税金資産          | 128,107           | 未払費用             | 261,288           |
| その他             | 22,859            | 未払法人税等           | 489,640           |
| 貸倒引当金           | △179              | 未払消費税等           | 160,034           |
| <b>固定資産</b>     | <b>5,597,880</b>  | 前受金              | 13,556            |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>4,867,549</b>  | 預り金              | 93,575            |
| 建物              | 1,712,210         | 賞与引当金            | 255,948           |
| 構築物             | 82,392            | <b>固定負債</b>      | <b>1,253,754</b>  |
| 機械及び装置          | 18,687            | 長期借入金            | 619,280           |
| 工具、器具及び備品       | 54,700            | リース債務            | 26,328            |
| 土地              | 2,952,605         | 繰延税金負債           | 42,963            |
| リース資産           | 46,952            | 役員退職慰労引当金        | 488,226           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>39,712</b>     | 資産除去債務           | 66,791            |
| ソフトウェア          | 23,749            | その他              | 10,164            |
| その他             | 15,962            | <b>負債合計</b>      | <b>3,666,572</b>  |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>690,618</b>    | <b>(純資産の部)</b>   |                   |
| 投資有価証券          | 4,500             | <b>株主資本</b>      | <b>10,359,194</b> |
| 関係会社株式          | 20,534            | <b>資本金</b>       | <b>1,156,410</b>  |
| 破産更生債権等         | 7,819             | <b>資本剰余金</b>     | <b>856,410</b>    |
| 長期前払費用          | 71,355            | 資本準備金            | 856,410           |
| 前払年金費用          | 273,116           | <b>利益剰余金</b>     | <b>8,346,466</b>  |
| その他             | 364,699           | 利益準備金            | 40,590            |
| 貸倒引当金           | △51,407           | その他利益剰余金         | 8,305,876         |
|                 |                   | 別途積立金            | 1,880,000         |
|                 |                   | 繰越利益剰余金          | 6,425,876         |
|                 |                   | <b>自己株式</b>      | <b>△92</b>        |
| <b>資産合計</b>     | <b>14,025,766</b> | <b>純資産合計</b>     | <b>10,359,194</b> |
|                 |                   | <b>負債及び純資産合計</b> | <b>14,025,766</b> |

## 損益計算書 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

| 科 目          | 金 額     |            |
|--------------|---------|------------|
| 売上高          |         | 13,273,740 |
| 売上原価         |         | 3,774,477  |
| 売上総利益        |         | 9,499,262  |
| 販売費及び一般管理費   |         | 7,166,782  |
| 営業利益         |         | 2,332,480  |
| 営業外収益        |         |            |
| 受取利息及び配当金    | 1,409   |            |
| その他          | 37,467  | 38,876     |
| 営業外費用        |         |            |
| 支払利息         | 11,283  |            |
| その他          | 20,109  | 31,392     |
| 経常利益         |         | 2,339,964  |
| 税引前当期純利益     |         | 2,339,964  |
| 法人税、住民税及び事業税 | 826,277 |            |
| 法人税等調整額      | 28,113  | 854,391    |
| 当期純利益        |         | 1,485,573  |

## 株主資本等変動計算書 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

|              | 株 主 資 本   |           |             |           |           |               |             |         | 株 主 資 本 計  |
|--------------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|---------------|-------------|---------|------------|
|              | 資 本 金     | 資 本 剰 余 金 |             | 利 益 準 備 金 | 利 益 剰 余 金 |               |             | 自 己 株 式 |            |
|              |           | 資 本 準 備 金 | 資 本 剰 余 金 計 |           | 別 途 積 立 金 | 線 越 利 益 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 計 |         |            |
| 平成27年4月1日残高  | 1,156,410 | 856,410   | 856,410     | 40,590    | 1,880,000 | 5,335,244     | 7,255,834   | -       | 9,268,654  |
| 事業年度中の変動額    |           |           |             |           |           |               |             |         |            |
| 剰余金の配当       |           |           |             |           |           | △394,940      | △394,940    |         | △394,940   |
| 当期純利益        |           |           |             |           |           | 1,485,573     | 1,485,573   |         | 1,485,573  |
| 自己株式の取得      |           |           |             |           |           |               |             | △92     | △92        |
| 事業年度中の変動額合計  | -         | -         | -           | -         | -         | 1,090,632     | 1,090,632   | △92     | 1,090,539  |
| 平成28年3月31日残高 | 1,156,410 | 856,410   | 856,410     | 40,590    | 1,880,000 | 6,425,876     | 8,346,466   | △92     | 10,359,194 |

|              | 純資産合計      |
|--------------|------------|
| 平成27年4月1日残高  | 9,268,654  |
| 事業年度中の変動額    |            |
| 剰余金の配当       | △394,940   |
| 当期純利益        | 1,485,573  |
| 自己株式の取得      | △92        |
| 事業年度中の変動額合計  | 1,090,539  |
| 平成28年3月31日残高 | 10,359,194 |

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法による原価法によっております。
- ② その他有価証券  
時価のないもの……………移動平均法による原価法によっております。

#### (2) デリバティブの評価基準

- 及び評価方法……………時価法によっております。  
 なお、デリバティブ取引のうち特例処理の要件を満たしている場合には特例処理によっております。

#### (3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

- ① 製 品……………移動平均法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）によっております。
- ② 原 材 料……………移動平均法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）によっております。
- ③ 貯 蔵 品……………最終仕入原価法（収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）によっております。

#### (4) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産  
 (リース資産を除く)……………定率法によっております。  
 ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。  
 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。  
     建 物 3～65年  
     構築物 7～40年

- 
- ② 無形固定資産  
(リース資産を除く)……………定額法によっております。  
ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

- ③ リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金……………期末現在に有する債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金……………従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。
- ③ 退職給付引当金……………従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。  
なお、数理計算上の差異については、その発生時の翌事業年度から1年で費用処理することとしております。
- ④ 役員退職慰労引当金……………役員の退職慰労金の支払いに備えるため、規程に基づく期末要支給額を計上しております。

## (6) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(7) 記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 2. 貸借対照表に関する注記

## (1) 担保に供している資産

## ① 担保提供資産

| 種 類 | 期 末 帳 簿 価 額 |
|-----|-------------|
| 建 物 | 278,976千円   |
| 土 地 | 2,142,167千円 |
| 計   | 2,421,144千円 |

## ② 上記に対応する債務

| 内 容                       | 期 末 残 高   |
|---------------------------|-----------|
| 1 年 内 返 済 予 定 の 長 期 借 入 金 | 276,000千円 |
| 長 期 借 入 金                 | 430,500千円 |
| 計                         | 706,500千円 |

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 2,169,939千円

## (3) 関係会社に対する金銭債権・債務

| 内 容         | 期 末 残 高 |
|-------------|---------|
| 短 期 金 銭 債 権 | 769千円   |
| 短 期 金 銭 債 務 | 6,243千円 |

### 3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

| 内 容       | 期 末 残 高  |
|-----------|----------|
| 営 業 取 引 高 | 64,497千円 |

### 4. 株主資本等変動計算書に関する注記

- (1) 当事業年度の末日における発行済株式の数 12,341,900株  
(2) 当事業年度の末日における自己株式の数 68株  
(3) 剰余金の配当に関する事項  
① 配当金支払額

| 決 議                  | 株式の種類 | 配当金の総額    | 1株当たり<br>配当額 | 基 準 日      | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-----------|--------------|------------|------------|
| 平成27年6月23日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 394,940千円 | 32円          | 平成27年3月31日 | 平成27年6月24日 |

- ② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの次のとおり決議を予定しております。

| 決 議 予 定              | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の<br>総額 | 1株当たり<br>配当額 | 基 準 日      | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-------|------------|--------------|------------|------------|
| 平成28年6月22日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 493,673千円  | 40円          | 平成28年3月31日 | 平成28年6月23日 |

## 5. 税効果会計に関する注記

### (1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因

|           |            |
|-----------|------------|
| 繰延税金資産    |            |
| 役員退職慰労引当金 | 149,494千円  |
| 賞与引当金     | 78,985千円   |
| 未払事業税等    | 34,982千円   |
| ゴルフ会員権    | 30,195千円   |
| 資産除去債務    | 20,462千円   |
| 保険積立金     | 20,406千円   |
| 未払社会保険料   | 11,312千円   |
| 減価償却費超過額  | 6,933千円    |
| その他       | 3,142千円    |
| 繰延税金資産小計  | 355,915千円  |
| 評価性引当額    | △179,690千円 |
| 繰延税金資産合計  | 176,224千円  |
| 繰延税金負債    |            |
| 前払年金費用    | △83,628千円  |
| 資産除去債務    | △7,452千円   |
| 繰延税金負債合計  | △91,080千円  |
| 繰延税金資産の純額 | 85,144千円   |

### (2) 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成28年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の33.06%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年4月1日から平成30年3月31日までのものは30.86%、平成30年4月1日以降のものについては30.62%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が3,501千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が3,501千円増加しております。

## 6. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信限度管理規程に沿ってリスクの低減を図っております。

借入金の使途は運転資金であり、流動性リスクを抑制するため、適時に資金繰計画を作成・更新することにより管理しております。

また、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、デリバティブ取引は内規に従い、実需の範囲で行なうこととしております。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

平成28年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注）2.を参照ください。）。

|               | 貸借対照表計上額      | 時 価           | 差 額     |
|---------------|---------------|---------------|---------|
| (1) 現金及び預金    | 6,156,713千円   | 6,156,713千円   | —千円     |
| (2) 売掛金       | 1,796,180千円   | 1,796,180千円   | —千円     |
| (3) 長期借入金（*1） | (1,032,068千円) | (1,034,888千円) | 2,820千円 |
| (4) デリバティブ取引  | —千円           | —千円           | —千円     |

（\*1）長期借入金は、1年内返済予定の長期借入金を含んだ金額で表示しております。

（\*2）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注）1.金融商品の時価の算定方法並びにデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行なった場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっております。

(4) デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。（上記(3)参照）

2.時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区 分           | 貸借対照表計上額 |
|---------------|----------|
| 関係会社株式（子会社株式） | 20,534千円 |

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

---

## 7. 1 株当たり情報に関する注記

|             |         |
|-------------|---------|
| 1 株当たり純資産額  | 839円36銭 |
| 1 株当たり当期純利益 | 120円37銭 |

## 独立監査人の監査報告書

平成28年5月18日

株式会社 アサンテ  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 佐藤 明典 ㊞  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 石井 広幸 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社アサンテの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第43期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第43期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

(1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

(2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役および監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。

② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。

③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

# 監査役会の監査報告書 謄本

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムの構築及び運用については、継続的な改善が図られており、事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成28年5月23日

株式会社アサンテ 監査役会

常勤監査役（社外監査役） 犬飼由喜夫 ㊟

監査役（社外監査役） 櫛田 泰彦 ㊟

監査役（社外監査役） 黒澤 誠一 ㊟

以上

# 株主総会参考書類

## 議案及び参考事項

### 議案

#### 剰余金の配当の件

剰余金の配当につきましては、株主の皆さまに対する利益還元を最優先に考え、安定的な配当の維持を基本として配当性向、企業体質の強化及び内部留保の充実等を総合的に勘案のうえ、以下のとおりといたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

- (1) 配当財産の種類  
金銭といたします。
- (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式 1 株につき金40円                      総額493,673,280円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日  
平成28年6月23日

以 上



# 株主総会会場ご案内図

会場：東京都新宿区西新宿八丁目17番1号  
ベルサール新宿グランドコンファレンスセンター5階  
TEL 03-3362-4792



|         |      |            |       |
|---------|------|------------|-------|
| 交通のご案内： | 丸ノ内線 | 西新宿駅 1番出口  | 徒歩3分  |
|         | 大江戸線 | 都庁前駅 E4出口  | 徒歩7分  |
|         | 大江戸線 | 新宿西口駅 D4出口 | 徒歩11分 |
|         | JR線  | 新宿駅 西口     | 徒歩15分 |

株式会社 アサンテ



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。